

地域における認知症の理解についての啓もう活動を通じて

奈良県認知症介護指導者 榊井 雅史

キーワード: 認知症カフェ、地域の認知症の理解

活動の概要(活動の主体:法人)

【活動目的】

地域における認知症の理解について啓もう活動のための、行政主催の認知症カフェの開催

【活動内容】

行政担当者等と協力をを行い、認知症の啓もうと認知症のご家族同士の交流の場を作る

活動のきっかけ、背景(指導者として・認知症地域支援推進員としての立場で)

元々地域や行政と協力する体制が整っていた中で、平成 27 年度から行政主催の認知症カフェを開催するに当たり、地域の社会福祉法である当法人へ協力の要請があり、実施内容や会場設営、当日の職員協力を行ったことがきっかけとなっている。

活動の経過と成果

【活動の経過】

平成 27 年度から行政主催の認知症カフェを開催。当法人は協賛として会場の設営や職員派遣などをおこなった。一般的な定期的に活動するオレンジカフェとは違い、行政の年間行事として開催していたこともあり、令和元年度までは年に 1 回の開催であった。活動では、医師等が認知症について話されることや、家族介護を行っているご家族のインタビュー動画を作成して参加者に見て頂き、実際に在宅で認知症の方の介護を行う時の心理面の变化などを実体験から知ることや、企業が出している認知症の家族を描いたドラマを見ての感想から、参加者同士で認知症介護について気づいたことなどを話していただくような内容を主に行っていた。

回を重ねるごとに、認知症について知って頂く機会として、また町内での活動として認識していただけていることを感じられるようにはなってきたが、参加者数については毎年難しいものがあった。また参加していただける方は、認知症に興味や不安がある方であったが、参加していただけていない方々にどのようにして興味を持っていただけるのか、また取り組みを知って頂けるのか。という課題が明確になっていった。

またこの活動には、コミュニティスクールとして地域の高等学校から、毎年数名の生徒の方が参加、事前の行政等との会議や、ケーブルテレビで流れるCM撮影、案内板の作成などを行い、当日も会場案内や、お茶の提供、参加された方々との談笑として協力いただいた。令和 2 年度、新型コロナウイルス感染拡大等により、サロンが中止され、今年度カフェ自体も中止することとなってしまった。

【活動の成果】

参加頂いた方からのご意見としては認知症に対するイメージが「変わった。認知症のことを考えたこともなかった」や、「認知症を深く知りたい」「接し方、理解の仕方など、改めて知識をつけることができた」など肯定的なご意見がある中、「もっとお話しをする時間が欲しかった」というご意見も頂いた。

また協力してくれた高校生からは「本やインターネットよりも実際の話聞いてすごく感動しました」や「実際に介護をされていた方の話を聞いてよかった」など日ごろの学校生活では直接接する機会の少ない地域の高齢の方々や、認知症介護を行うご家族のお話を聞く機会となったと意見を頂けた。

過去 6 回の実施を通じて、地域の方にもこのカフェを知って頂き、認知症について考えて頂ける機会作りや、地域で一緒に生活する方々の中にも認知症介護を行っているご家族がおられることを知って頂くことに繋がっていることは、法人として協賛させていただく中で、成果として感じている。

今後の展望

地域の方々に認知症について知って頂く機会を作っていく。また認知症に興味がなかった人へも啓発していけるよう取り組みを検討していく。今後は特養の職員という立場でありながら地域支援推進員への協力を検討しており、実際どのような働きかけが可能かという点を含めて検討する。

こちらの事例報告は、「認知症介護指導者養成研修等のアウトカム評価に関する調査研究事業報告書(令和 2 年度老人保健健康増進等事業)」の巻末資料【認知症介護指導者の活動事例】からの抜粋です。